

公立刈田総合病院について

高橋 鈍 斎



大半を白石市が補填するよつでは、数年で市の財政は取り返しがつかないことになる。

〔質問〕刈田病院の公営

企業決算カードでは、令和元年度の医師1人1日当たりの診療収入は31万9千714円で、ずいぶん頑張っていた。

この頃、市長は民営化を言い出し、一気に繰入金が減額されたことで、現在の状況になったのではないかと。

〔答弁〕〔市長〕令和元年度の病院経営比較表における純損益では、約8億4千万円の損失を計上しており、経営状況は良好と言える水準にはない。

また、現状では、毎月約8千万円から1億円の赤字を計上している。年間十数億円、その

観的にADR(裁判外紛争解決手続)も含め、和解案などという形になるのではないかと思われる。

〔質問〕刈田病院では、令和3年5月と11月、二度の勤奨退職の実施協力願を出している。

医師に加え、看護師などの退職者が出ると、ますます運営悪化となり、これでは民営も公営もない。

病院存続のためには、新たな医師の確保が必要と考えるが、方策を伺う。

〔答弁〕〔市長〕医師紹介業務によって、今年度、5名の医師が刈田病院に勤務された。

今後この業務を通じて、刈田病院での勤務を希望する医師の発掘に取り組んでいく。

勤奨退職の実施については承知しているが、病院事業の人事に関わることは、病院にご確認いただきたい。

米価下落と原油高騰により逼迫する農家経営の支援策について他

四 竈 英 夫



〔質問〕今年の米価は前年を大きく下回った。

「ひとめぼれ」は一等米60キログラム当たり3千100円下がり、概算金で9千500円となった。

コロナ禍による外食需要の落ち込みで、コメの在庫が大幅に増えたことなどが影響している。

米価下落による減収の試算額を伺う。

〔答弁〕〔農林課長〕米作付面積約98.3ヘクタール、基準収量510キログラムで計算すると、約2億5千850万円の影響があると試算している。

〔質問〕米価の下落に加え、原油高により燃料が値上がりし、農業経

営は逼迫している。

農家の窮状を支援するための対策を伺う。

〔答弁〕〔市長〕みやぎ仙南農業協同組合から、稲作農家に対する支援策の提案を受け、組合長と意見交換会を開催した。その結果、七ヶ宿町を除く2市6町において、10アール当たり4千円の次期作経営の支援を決定したことから、今議会最終日に、補正予算を提案することにしている。

◎カーボンニュートラルの取り組みについて

〔質問〕大雨、干ばつ、大規模森林火災など、地球温暖化による気象災害が多発している。

政府は、2050年までに二酸化炭素の排出量をゼロを目指す、カーボンニュートラルを打

ち出した。このことに対する認識を伺う。

〔答弁〕〔市長〕法に基づくカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、地方創生につながる再生可能エネルギーの促進など、本市の取り組みべき課題を整理し、進めていく必要があると考えている。

〔質問〕本市においても、自然エネルギーによる発電事業が実施されているが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市では、大規模太陽光発電所(メガソーラー)、大型風力発電所、小水力発電所などさまざまな事業が展開されている。

一方で、開発による森林機能の低下、景観への影響も考えられることから、環境影響評価が実施される大規模施設については、今後も慎重に対応していきたい。

◎その他の質問
〔その質問〕
新型コロナウイルス接種について